

第1回 北九州市地方独立行政法人評価委員会（議事要旨）

1 日時：平成17年2月7日（月） 13:30～15:40

2 場所：市役所本庁舎5階 特A会議室

3 出席者：

委員（五十音順）

・石田委員、片山委員、城水委員、中島委員、福地委員

市側

<総務市民局>

・大庭局長、南本経営企画室長 他

<産業学術振興局>

・佐藤局長、尾上産業学術政策部長 他

<北九州市立大学事務局>

・永津事務局長、三坂事務局次長、熊埜御堂参事 他

4 議題

(1) 委嘱状交付等

(2) 委員及び事務局紹介

(3) 委員長選任及び委員長職務代理者指名

(4) 会議及び会議録の公開

(5) 地方独立行政法人制度の概要等

(6) 地方独立行政法人評価委員会

(7) 北九州市立大学の概要等

(8) 審議事項

中期目標（案）、中期計画（案）

業務方法書（案）

役員報酬及び退職手当支給基準（案）

(9) 平成16年度のスケジュール

5 議事 (要旨)

<p>南本室長</p>	<p>(1) 開会、委嘱状交付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間になりましたので、会議を開催します。 ・次第によりまして、はじめに、委員の皆様へ委嘱状を交付します。 <p>大庭総務市民局長より、石田委員から順に各委員に辞令書を交付</p>
<p>南本室長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次に、委員会の開催にあたりまして、総務市民局長の大庭よりご挨拶申し上げます。
<p>大庭局長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本委員会の開催にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。 <p>本日は、委員の皆様にはお忙しい所お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>只今辞令書をお渡ししましたが、平成19年まで、宜しくお願いします。</p> <p>本市では、新しい行財政改革大綱を策定し、行財政改革に取り組んでいるところですが、その中で、業務の民営化や民間委託化等と伴に、地方独立行政法人制度についても、より効率的・効果的な行政の実現に向けて、幅広い視点から検討しているところです。</p> <p>この中で、北九州市立大学について、大学が将来目指すべき方向と目標をとりまとめた北九州市立大学改革プランに、平成17年4月に地方独立行政法人に移行することを明記したところです。</p> <p>この地方独立行政法人制度につきましては、ご案内のとおり、目標による管理と適正な実績評価、業績主義に基づく人事管理と財務運営の弾力化、徹底した情報公開等が制度の柱となっております。</p> <p>また、法律の規定により、第三者機関として、評価委員会の設置が義務付けられています。</p> <p>本委員会におきましては、市長が策定する中期目標、それに基づき大学が策定する中期計画、大学の年度ごとの実績について審議・評価をしていただく等、目標による管理と適正な実績評価を行ううえで、本委員会が果たしていく役割は極めて重要だと考えています。</p> <p>委員の皆様におかれましては、それぞれのお立場から、厳格・公正な評価を行っていただき、法人の発展にご尽力いただきますようお願いいたします。</p> <p>以上簡単ですが、開会にあたっての私の挨拶とさせていただきます。どうぞ宜しくお願いします。</p>

南本室長	<p>(2) 委員及び事務局紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここで改めて、就任されました委員の皆様を、私の方からお名前をお呼びし紹介させていただきますので、挨拶をお願いします。 <p style="text-align: center;">石田委員から順に各委員自己紹介</p>
南本室長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。次に、本日説明等をいたします関係局職員を紹介します。自己紹介の形でお願いします。 <p style="text-align: center;">佐藤局長から順に、関係局局长・部長自己紹介</p>
南本室長	<p>(3) 委員長選任及び委員長職務代理者指名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それでは審議に入ります。 <p>まず、本委員会の委員長の選出です。</p> <p>資料2「地方独立行政法人評価委員会条例」に基づき、委員長は、委員の互選となっています。</p> <p>委員の皆様から、委員長のご指名をいただければと思います。</p> <p>どなたかありませんか。</p> <p style="text-align: center;">石田委員を推薦、各委員賛同</p>
南本室長	<ul style="list-style-type: none"> ・では、石田委員、委員長ということで宜しくお願いします。 <p>今後の議事進行については、石田委員長にお願いします。</p>
石田委員長	<p>大変恐縮ですが、皆様の意向でもありますので、不慣れで不行き届きの点もあろうかと思いますが、議事進行その他どうぞ宜しくお願いします。</p>
石田委員長	<p>では、本日の評価委員会の議題に沿って、まず、委員長職務代理者の指名についてです。</p> <p>委員会の手続により決定する必要があります。</p> <p>条例の規定により、委員長の方からということですので、お忙しい中恐縮ですが、福地委員にお願いしたいと思います。</p> <p style="text-align: center;">福地委員了承</p>
石田委員長	<p>福地委員、今後とも宜しくお願いします。</p>

<p>石田委員長</p>	<p><u>(4) 会議及び会議録の公開</u></p> <p>議題の4に入ります。 本委員会の会議の公開についてです。事務局より説明をお願いします。</p> <p>事務局より、「資料3 附属機関の会議の公開に関する要項」 及び「資料9 評価委員会運営要綱(案)」の内容を説明</p>
<p>石田委員長</p>	<p>事務局から説明のあった、会議の公開、会議録の公開、運営要項について、 意見等ありませんか。</p> <p>委員からの意見等なし</p>
<p>石田委員長</p>	<p>では、市の規定に従い、特別な場合として、事前に非公開と決定しない限り、 全て会議を公開したいと思います。 会議録についても、同様という事で行いたいと思います。 このように決定したいと思います。</p>
<p>石田委員長</p>	<p><u>(5) 地方独立行政法人制度の概要等</u></p> <p>続いて、議題5に移ります。 地方独立行政法人制度の概要について、事務局より説明をお願いします。</p> <p>事務局より、「資料4 地方独立行政法人制度の概要」の内容を説明</p>
<p>石田委員長</p>	<p>事務局の説明について、質問等ありませんか。</p> <p>委員からの意見等なし</p>
<p>石田委員長</p>	<p>委員の皆様は質問等があれば、後ほどでも良いので、宜しくをお願いします。 地方独立行政法人制度の概要を了承していただいたということで、次に進 めます。</p>
<p>石田委員長</p>	<p><u>(6) 地方独立行政法人評価委員会</u></p> <p>次は、議題6、地方独立行政法人評価委員会について、概要を事務局より 説明をお願いします。</p>

	事務局より、「資料5 評価委員会の概要」の内容を説明
石田委員長	何か意見等ありますか。どんなことでも結構です。
委員	資料5 1の「その他」で、「評価委員会の出席は過半数が必要」とあり、これは分かります。次に「議事は、委員の過半数で決定」とありますが、これは、出席委員なのか、全委員なのか教えていただきたいと思います。
事務局	条例第6条3項に規定していますが、「会議に出席したもの」の過半数という意味です。
石田委員長	他に何かありますか。
委員	資料5 - 2 で「意見を申し出ることができる」とありますが、「申し出なければならない」ではないのでしょうか。
委員	文言からすると、たぶん、必要がある場合におこなうことができる「できる」規定だと思いますが、いかがでしょうか。
事務局	「できる」規定です。
委員	その他のものは、「～しなければならない。」という事ですね。 また、 は「評価しなければならない。」とあり、 で「評価結果を通知する」とありますが、これは、 を受けた結果ということですね。
事務局	評価の結果の通知という意味です。
石田委員長	他に何かありませんか。 では、只今の議事は了承いただいたということで、次に進めます。
石田委員長	<u>(7)北九州市立大学の概要等</u> 議題の7に入ります。 北九州市立大学の概要等について、事務局より説明をお願いします。
	事務局より、「資料6 北九州市立大学の概要」の内容を説明

石田委員長	何か質問等はありませんか。
委員	6 - 2 に教員数、学生数があるが、職員数は何人でしょうか。 また、(教員と職員を)兼ねている人はいませんか。
事務局	職員数は、約80名です。 兼ねている人はいません。
委員	人件費は、教員と職員の305名に充てられているのですね。
事務局	教員と職員を足した数字です。
委員	6 - 3 の卒業生数1,234名と就職希望者数715名の差が500名程ありますが、これらの理由を教えてください。
事務局	500名の内訳は、就職を希望しない者、大学院に進学する者、公務員試験等で残っている就職浪人です。他の大学より若干数は多くなっているようです。
委員	少し多いような気がします。
委員	例えば、公務員志望の者(で翌年度に受かった者)は、翌年度の就職決定者の中に入るのですか。
事務局	その年度の卒業生なので、数には入っていません。
委員	では、前年度に卒業して次年度就職した者等は、どのように把握していますか。 例えば、公務員志望の者で卒業年度の翌年に就職した者などはどうですか。
事務局	その年度の卒業年度なので、数には入りません。
委員	6 - 2 の財務状況について、歳入のうち使用料の割合が39%、歳出のうち人件費が39%などは、どこの大学も同様なものですか。
事務局	石田委員長がよくご存知と思いますが、文系・理系で数字にかなり差があ

	<p>ります。当大学も、国際環境工学部が入って、人件費の占める割合、授業料に占める割合の数字が変わってきています。</p>
委員	<p>理系の多い大学と文系の多い大学によって、収入も違うのですが、例えば、理系が多いと、支出も研究費・実験費等のウエイトが高くなります。これに、メディカルが加わるとまた一段と高くなります。このように、学部の構成等によって、収入・支出に多少変化があります。</p>
委員	<p>当大学が、この割合で、おかしいとか、何か特に問題がある訳ではないのですね。</p>
委員	<p>特にないとは思いますが、いかがですか。</p>
事務局	<p>参考として、他の公立大学の例を申し上げますと、平成15年度の人件費で比較すると、東京都立大学が69%、大阪府立大学が67%、当大学が44%となっています。このように人件費率は公立大学の中でも、かなり低くなっています。医学部等が入れば、比率が高くなります。下関市立大学は経済系の学部だけですので、割合は低くなっています。</p>
委員	<p>全国的に、人件費率は52～53%でとどめるのが一般的な傾向のようです。私立大学でも、しばしば57～58%になったりしますが、(当大学のように)50%以下というのはまずまずだと思います。</p>
石田委員長	<p>他に何かありませんか。</p>
委員	<p>国際環境工学研究科は、博士課程前期(・後期)がありますが、社会システム研究科には博士課程後期しかありません。ここには、どこから進学するのですか。例えば、文系の経営学(修士課程)等からもいけるのですか。</p>
事務局	<p>社会システム研究科は後期だけであり、他の修士課程の研究科から進学できる仕組みになっています。</p>
委員	<p>6-3の就職状況に関連して、今年度、ひびきの(国際環境工学部)から初の卒業生が出ると思いますが、ひびきのについて、今年度の就職状況を教えてください。</p>

事務局	今年度が初めての卒業ですが、荒い数字でいうと、卒業生230人中、110名進学、20名留年、100名が就職希望となるが、そのうち5～6人が未決定で、決定率は95%の見込みです。なお、詳細は調査中です。
委員	95%は大変高いと思います。 なお、工学系統は、修士課程まで行くことが増える傾向にあるようです
委員	全学生6,600人に占める女子学生の割合を教えてください。
事務局	52%です。
委員	女性の方が多いのですね。これは、かなり高い数字です。
石田委員長	他に何かありませんか。ないようであれば、大学の状況を認識いただいたということで次に進めます。
	(8) 審議事項
	中期目標(案) 中期計画(案)
石田委員長	本日のメインとなるかと思いますが、今後の中期目標・計画(案)について審議します。事務局から説明をお願いします。
	事務局より「資料6 北九州市立大学改革プラン」「資料7 中期目標・計画等について(一覧)」「資料7 中期目標・中期計画(原案)」の内容を説明
石田委員長	中期目標・中期計画については、今後とも、本委員会が、策定・意見・評価として関わっていきますので、極めて大切なところだと思います。 各論は、細かいこともありますので、いっぺんにはなかなか我々が掌握するのは難しいところもありますが、なんでも結構ですので、お願いします。
委員	全体として「アジア」という重要なキーワードが随所にでてきますが、これをもう少し整理して目標に反映させる必要があると思います。 研究対象としてアジアを考えるのは、東アジア研究で「北方(キャンパス)」でやろうとしているようでこれは分かりますが、一方で、アジアの研究拠点であれば放っておいても、日本はアジアの(一部なので)拠点になります。

	<p>そうでなく、おそらく連携を密にする、留学生の交換をする、オフィスをアジアに設けるとかに繋がっていないと、言葉の一人歩きになります。</p> <p>また、大学改革プランの中にも、6 - 4に、これは誤解を招きやすい表現と感じたのですが、「アジアにおける国際的水準の学術研究拠点の形成を目指す」の「アジアにおける」はどこにかかるとでしょうか。「アジアにおける国際的水準」といえば、一般的には、残念ながら世界の水準からすると下回っていることになります。</p> <p>「アジアにおける」が学術研究拠点にかかるとすれば、これは、日本では当然であり、目標として、成果がでたかどうか、納税者でも判るように、具体的に記述する必要があると思います。</p>
石田委員長	<p>今の意見について、的確な意見だと思いますので、(案を)修正するときに、是非その辺を踏まえて修正していただきたいと思います。</p>
委員	<p>「アジア」という言葉がたくさんでてきたが、それと関連して、「国際東アジア研究センター(ICSEAD)」について、どういうもので、どういう関わりをしてきたのかなど、簡単に説明していただきたいと思います。</p> <p>場合によっては、そこを中心としてまとめられると上手くいくこともあると思います。</p>
事務局	<p>平成元年に、北九州市ルネッサンス構想に基づき、アジアの研究拠点を目指す機関として設置されたものです。</p> <p>東アジアの経済圏についての研究機関です。</p> <p>設立以降、当大学の産業社会研究所と連携して、また、県内・西日本地域の大学と連携した活動を行っています。</p> <p>基本的には研究機関ですが、随時、当大学に客員教授を派遣したり、博士課程の開設に際して、連携を図っていくこととしています。</p> <p>今回の法人化に際し、北九州市の資源である市の財団の活用として、東アジアの研究に際しての連携を図るため、大学改革プランにも盛り込んだものです。</p>
委員	<p>市の財団法人なのですね。</p> <p>確認ですが、名前は「東アジア」ですね。</p>
事務局	<p>市の財団法人であり、名前は「国際東アジア」です。</p>

委員	<p>改革プラン・計画の中は、「アジア」となっていますね。</p> <p>その辺も、内容と整合性を持たせて、中期計画に盛り込んで欲しいと思います。</p>
委員	<p>内容を見ると、あらゆることが網羅されています。</p> <p>目標や計画には多少の優先順位をつけないと、前に進まないものだと思います。</p>
委員	<p>内容が盛りだくさんなので、少し整理ができるものかどうかですが。</p>
事務局	<p>今の点についてですが、今後、年度計画を作っていきます。</p> <p>ここでは、平成19年度に、学部の再編や、教養課程の見直し等、一つの山があるようになっており、それに向けての整理が今後あります。</p> <p>中期計画には網羅的に書いていますが、説明等をする場合に、趣旨を踏まえて整理したいと思います。</p>
事務局	<p>また、市が設置する大学なので、学生重視の大学でやっていくことで、メリハリをつけていきたいと考えています。</p> <p>その一方で、研究面、地域貢献も重視していきたいと思います。</p>
委員	<p>「語学の力を身につけさせる」ことは良いことですが、中期計画に TOEIC、TOEFL で具体的な数値を出していますが、数値を出すときに注意することは、卒業要件として、それ以上の点をとらないと卒業させないと表現する大学も最近は少なくありません。</p> <p>JABEE では、一人でも目標値に達しないとダメだということで、達しない学生は卒業させないという厳しい措置をとる、そうでないと、JABEE コースの認定はしないとなっています。</p> <p>何割取得するというのは、甘い目標だと思われます。</p> <p>最低限これは卒業要件にする、卒業者の中で優秀者は何点以上、何割ぐらいはとるという表現でないと、国際的には通用しないと思われます。</p> <p>最近、技術者の認定制度では、アメリカのエイベットのやり方を導入しているところは、非常に厳格になっています。</p> <p>完全に100%でないと、そのコースの修了者とはみなさない(となっています)。点を明示した以上は、そういうこともありますので。</p>
委員	<p>また、留学生を派遣する場合にも、ある点数以上でないと派遣しないなど</p>

事務局	<p>がありますが、そのあたりも、整理・検討をし、修正していただきたいと 思います。</p> <p>補足しますと、当大学は前身が外事専門学校であり、オリジンが外国語と いうことで、その辺が今の外国語学部に通じています。</p> <p>それを全学部を活かそうということです。</p> <p>先ほどの指摘は、例えば、経済学部で外国語学部の到達目標をあてはめて も無理があり、学部ごとに若干違ってくると思います。</p> <p>今のところ卒業要件という厳しいところまでは考えていないが、という 形で具体化するかについて考慮していきたいと思います。</p>
委員	<p>目標の中で、学生に対する目標は、例えば、優秀な学生の確保等いろいろ とあるようですが、教員に対する目標も必要でないかと思いますが。</p> <p>136番以降に評価システム等はできてきますが、大きな目標として、教員 に対する目標はどうですか。</p> <p>また、143番で「女性教員の登用」とありますが、これはどういう意味 ですか。今の教員数を増やす等の意味ですか。</p>
事務局	<p>1点目は、7-6 35番にあります。教育活動の評価システムの整備 として、教員についても、来年度から研究費の部分について、評価シ ステムを導入します。</p> <p>19年度には、昇任、賞与などへの導入について、プロジェクトチームを 作って検討しています。</p> <p>教育活動全体について、学生による授業評価や、事務職員についても評価 システムの導入を検討しています。</p> <p>教員についても、体系的なシステムを導入していきたいと思っ ています。</p> <p>2点目は、男女雇用機会均等法なども踏まえて、女性教員・事務職員を できる限り登用したいと考えています。</p> <p>ちなみに、現状、女性教員の割合は低くなっています。</p> <p>学生は、当大学の場合、女性が多いのですが、市全体と歩調を併せてい くという姿勢をあらわしたものです。</p>
委員	<p>女性教員の比率を教えてください。</p>
事務局	<p>数は今把握していませんが、学部によっては女性教員が0のところもあ ります。なお、女性教授・女性評議委員もいます。</p>

委員	<p>しかし、全体として数は少ない状態です。</p> <p>先ほどの「女性登用」についての質問の趣旨は、教育機関は教員の実力が学生に跳ね返ってくる世界であり、こういうところに必ずしも女性が必要(多くして欲しい)との趣旨ではありません。</p>
委員	<p>教員評価システム検討は、どこで行っているのですか。</p>
事務局	<p>学内で、プロジェクトチームを作って、先生方が自主的に、各学部から代表の方がみえられて、自分達でまずやってみて、検証期間を2年間おいて行う予定です。</p> <p>実際、国際環境工学部で任期制を行ない評価システムを導入しており、それらを参考にしながら、文系のあり方を検討することにしています。</p> <p>それを、新しい体制(法人化後の運営体制)の中でオーソライズすることになると思います。</p>
委員	<p>これは難しい問題です。例えば、自分の研究に専念し、論文を書いて業績を残す先生と、教育に一生懸命力を入れる先生がいますが、評価をするとき、評価基準を上手く作らないと、バランスが取れないことがでてきます。</p>
事務局	<p>今の指摘の点は十分に踏まえたいと思います。</p> <p>例えば、ほとんど研究ばかりで教育を行わないような部署で、産業社会研究所のような部署もあり、検証しながら行っていきたいと思います。</p>
委員	<p>今の関連で、学生による評価を全授業で実施とありますが、これは既に一部導入されているのでしょうか。</p>
事務局	<p>全教科ではありませんが、全学部で実施しています。</p> <p>専任が対象の授業では実施しています。</p>
委員	<p>実施後は公表するのですか。</p>
事務局	<p>ホームページ上で、結果を公表しています。</p>
委員	<p>目標・計画を最終的に評価をするときに、何がどうなったらどう評価されるかというのは難しい問題です。</p>

事務局	<p>その当たりのポイントを明らかにしておいて欲しいと思います。</p> <p>評価の仕組みについては、プロジェクトチームで検討しています。</p> <p>例えば、教育面では、自己申告でウエイト付け、自分は教育面は30%するとか、研究は20%するとか、論文では、何点とか、社会貢献は具体的に挙げる等できるようにしています。</p>
委員	<p>先ほどの意見は、教育評価システムでなく、全般的なことを言ったつもりです。例えば、制度導入と言ったら、導入すれば終わりなのか、次の効果を狙っているのか、何ができれば効果が出たと判断するのかといった判断材料は、目標によってずいぶん違ってくると思います。目標の達成度を評価する尺度が、いづれないと困ると思います。</p>
委員	<p>難しいと思いますが、できるものについては、例えば、年次計画もあるし、2年間で達成する、5年かけてこれだけやる、そしてそれに対しての評価があると良いと思います。</p>
委員	<p>関連して、評価については、認証評価も教育研究では関わってきますが、最近の認証評価の考え方は、基準を設けてきちっと実施し、その結果が、教育や研究の改善に結びつく仕組みがあるかどうか、それが目に見える形で用意されているかどうかを重視されています。</p> <p>学生の授業評価の場合、その結果を、学長やしかるべき組織がどう活用して教員の評価に結びつけるかまで明示することが求められています。</p> <p>すでに考えているとは思いますが。</p>
事務局	<p>教育分野には、定量評価できるものや、アウトプットとアウトカムの方もあります。</p> <p>評価について、この委員会でするものと、認証機関の評価、大学での自己評価があります。</p> <p>P D C A サイクルで回転させていくものを、年度を最小単位として、また、社会状況の変化を踏まえ、中期計画の見直を含め、それがどういう効果をもたらしていくか、アウトカムをどうするかを大学内でも、評価基準・考え方を決めていきたいと思っています。</p> <p>特に、アクションにつなげていくことが大事だと思います。</p>
委員	<p>一時期、自己評価・自己点検がはやりましたが、「こういうことをしてます</p>

	<p>よ」で終わるものが多かったと思います。 そうでなく、的確に判断するということが必要だと思います。</p>
委員	<p>財務の運営体制の問題は、資産管理・運用を含めて、専門的な独自の機関があるのでしょうか、財務運営を担当する部署がどのようになるのでしょうか。学内なのでしょうか。</p>
事務局	<p>学内に部署を置くように考えています。 また、資産運用については、基本的に、大きな資産運用は発生しないと思っています。</p>
事務局	<p>補足すると、法律上、公立大学法人は、業務が大学運営とそれに付随するものに限られています。 私大には、金融資産の運用などあるようですが、公立大学では、それは発生しません。 当大学の資産は、土地と建物がありますが、税金を投入することもあり、大学運営に関するという縛りがあります。</p>
委員	<p>授業料を徴収し、予算を配分するという事は最低限必要になると思いますが、予算配分を学部任せるとなると学部の自治に委ねるのか、全体で掌握して配分するのか、その辺をどう考えるのですか。</p>
事務局	<p>地方独立行政法人会計基準で、セグメント会計、学部別会計を想定しています。中期計画では、リーダーシップに基づいた戦略的予算配分を謳っているが、具体化は今後の検討課題だと思っています。 また、学部の共通部分と政策的運用部分とをどうするかは検討させていただきたい。</p>
委員	<p>優秀な学生の確保について、今後、学生数が減っていくので大変なのですが、具体的には、例えば、九州の私立大学は、広島・岡山以西・四国・沖縄等まで全府県で説明会を行ったり、東京の大学も九州に来たりしていますが、当大学では、どのような形で、例えば説明会などを行っていますか。</p>
事務局	<p>志願者確保ということでは、毎年8月にオープンキャンパスを開催しています。また、大学からも九州管内の高校を訪問したり、2年前からは、出張オープンキャンパスで、鹿児島などにも行ってやっています。</p>

	<p>今のところ、出張して行かうのは九州内ですが、今後は、私立大学にも負けないように、関西、関東にも広報活動を行うことが必要と考えています。大学広報の充実ということを計画（中期計画）で謳っています。</p>
委員	<p>その点、九州は守勢に立っているようです。関東・関西の知名度の高い大学がやってきて、さらに、従来は、試験を1日こちらで行うだけでしたが、今は、関西の大学などは、本校と同様の試験日程で行うようになっており、九州の生徒が多く関西に行ってしまうなど、防御しなければならない厳しい状態です。</p> <p>また、立命館のアジア太平洋大学などは、中国まで行くなど、中国の高校とも提携しており、せっかく当大学にアジア留学生の受け入れシステムを作っても、皆、こちらを通り越して、アジア太平洋大学に行ってしまうことになりかねません。努力が必要だと思います。</p>
委員	<p>7 - 3に、「知的遺産」という言葉がありますが、これは、議論したうえでこのような言葉になったのですか。</p> <p>「知的遺産」という言葉は、受け取り方によっては、過去のことを考えることになります。現代の教養教育・基礎教育は、現代の目・現代の社会と照らし合わせて過去の識体験も結びつけて学ぶということであり、歴史・古典だけを学ぶわけではありません。この表現は、そのように誤解されるのではないかと思います。</p>
事務局	<p>学内の議論では、基礎教養教育が重要であり、過去の遺産をただ単に踏襲するのではなく、今後の教養教育の意気込みを含めた（これまでの資産という）意味合いで表現しています。</p>
委員	<p>学内の総意であれば、尊重しないといけませんね。</p>
委員	<p>歴史教育というものは、歴史を学んだ上で、現代社会・これからの社会にどのように対応するかといわれているので、先ほどの指摘になったと思います。しかし、学内の総意であれば、尊重すべきでしょう。</p>
委員	<p>「総合的に」に深い意味があるのでしょうか。</p>
事務局	<p>「知的成果」という文言でもいいのでしょうか。</p>

委員	「文化遺産」といえば、前向きな言葉でしょうが。
委員	「財産」でもいいのでしょうか。
委員	「知財権」という言葉もありますし。
委員	他に気になったのは、大学の学部・院を通じ、一方で高度な専門職業人の育成があり、一方で、専門的な研究能力を持つ、優れた人材の育成があります。 例えば、研究所、大学の研究者を育てるといったことがはっきりしないといけないと思います。 これから学部を充実させる中で、修士課程ぐらいまでは、専門職業人の育成ということになります。その先の研究能力になると博士課程後期を目指して、後期のことをいっているのか、そのあたりを整理してもらおうと思います。
石田委員長	まだ色々あると思いますが、各委員の方々からのご意見、今の質疑応答の中からでてきた意見・発言の趣旨を踏まえて、是非,中期目標・計画の中に盛り込んで頂きたいと思います。 大変と思いますが、宜しくお願いします。
石田委員長	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">業務方法書（案）</div> 次に業務方法書、実際の大学運営の業務をどうするかといったところの説明を事務局からお願いします。 事務局より、「資料8 業務方法書（案）」の内容を説明
石田委員長	ご意見等がありますか。
委員	6条の外部資金の受け入れに関して、寄付をした方が課税の対象にならない（控除になる）ということは大丈夫でしょうか。 そうでないと、せっかく寄付をしてもということになってしまいます。
事務局	税法上、公立大学法人は、現状の取扱いと変わらないということになっています。そのような特例になっています。

委員	<p>それであれば、今後、外部資金について、理系だけでなく、文系でも受け入れられると思います。</p>
石田委員長	<p>他に何かありますか。</p> <p>意見もないようですので、次回の提示の際、宜しくお願いします。</p>
石田委員長	<p>役員報酬及び退職手当支給基準（案）</p> <p>最後の審議事項である「役員報酬・退職手当支給基準」について、事務局より説明をお願いします。</p> <p style="text-align: center;">事務局より、「役員報酬等基準（案）」の内容を説明</p>
石田委員長	<p>意見等はありませんか。</p>
委員	<p>関連してですが、常勤監事を置かないということですね。</p>
事務局	<p>常勤監事は今のところ想定していません。</p>
委員	<p>内部の監査体制はどうされる予定ですか。</p>
事務局	<p>監査法人に監査業務を委託する予定です。</p>
委員	<p>外部監査に依存するということですね。</p> <p>外部監査も大変だと思います。</p>
委員	<p>役員退職手当支給基準の5の支給制限で、「役員退職後引き続き職員となったとき」とありますが、これは、そのときに支給しないという意味ですか。例えば、副学長が教授に戻るケースがありますが、この場合、支給がないということですか。その間、どう評価されるということでしょうか。</p>
事務局	<p>この場合、ひきつづき法人の職員になりますので、法人の職員として退職されるときに退職手当を払うことになります。</p>
委員	<p>職員となったときそのときには支給しないということですね。</p>
事務局	<p>まず、職員から役員になったそのときにも支給しません。</p>

委員	例えば、副学長在任中の評価（積算）はきちんとするということですね。 つまり、副学長在任中の分も通算して支払うということですね。
事務局	その期間の分も通算し、支払います。 その点は、職員の退職規程に盛り込みます。
石田委員長	今の意見等を反映させ、次回に提示してください。
石田委員長	(9) 平成16年度のスケジュール 平成16年度のスケジュールを事務局より説明ください。
事務局	資料10をご覧ください。 本年度中、3月までにもう1度委員会を開催したいと思っています。 これは、本日の修正案、4月1日に必ず意見をいただく業務方法書について、再度、実質的な審議をしていただきたいと思います。 加えて、役員報酬等支給基準、中期目標・計画についてもお示ししたいと思っています。3月24日（木）の午後1：30からはいかがでしょうか。
石田委員長	各委員のご予定はいかがでしょうか。 3月24日（木）で開催する方向で調整
事務局	再度、事務局から確認させてください。
石田委員長	それでは、スケジュールについて、再度確認していただきたいと思います。 また、4月1日は、決まっているのですね。 時間等はどうですか。
事務局	昼からと考えていますが、正式には次回決めたいと思います。
石田委員長	次回までにご提示をお願いします。予定の時間を若干すぎましたが、これで本日の委員会を終わらせていただきます。ありがとうございました。 委員会終了